



ある晩、ここの者が
敢えて人立ち入らぬこの部屋で
蜘蛛は、何事かと糸を垂らす。

やばい…これは
結構なピンチかも…





そこには、四つ足の人間
身動き取れず、睨み顔。

恨めしそうに、罾に掛かり
その視線の先を恨んでいる。

ふひひ〜♪ひひふ〜♪
無様でござるな〜♪

くっ…あんなっ！
ここは見逃した方が得よっ！
長生きしたかったらねっ！

その光景。
蜘蛛にはわからぬ。

頭などないに等しい畜生ゆえ
ここに至るまでの過程なぞ及びつかぬ、
しかしながら、
これは珍しいと光景と
畜生ながらもわかる。

ふんっ！
何を世迷言をっ！

うるさいっ！このっ！
こんなところでっ！

私は…っ！



なぜなら、これらが…

でも…
ワシも鬼ではない…

条件として…
……と……
ならどうでござるか？

!?

ふっふざけないでっ！
そんな条件…っ！



おもむろに、
交尾を始めたからだ。

あっ

あっ

いゃん

あひんっ

そこお
だめえんっ

小娘え
上手…
♡♡

くそ…
こんな…



これは異質だと
蜘蛛は頭を捻る。

うふん♡

(こんな上玉の娘に…)

罨に掛った者は
罨を掛けた者が
憎いのではないのか

(くひひ…
今日は…
本当に…)

あふん♡

(極楽じゃあ〜♪)

蜘蛛ながらそう思うが…

例え憎くても...

なあッ！
尻穴もおっ！
尻おなもおおしてえ♡

調子に乗るなあッ！
誰がああッ
アンタなんかの



更に続く交尾に
蜘蛛は頭を捻る。

そんなこと
言わんでおくれ♡

ワシ、傷ついちゃう♡

このっ！
いい加減に…っ！



全くの不可思議。

くっ…
反応したら負け…っ
コイツはそれを楽しんでいる…

ほひひっ小娘え♡
こんな体して♡

「おまんこして下さい」
と言っているような
ものだぞお♡

蜘蛛には、
交尾かどうかも
あやしく思えて…

無反応よ…
無反応…

ほれえ♥こうやって
お仲間の男共とっ！

乳繰り合って
おるんじやろ♥

男共の下品な欲望を
相手しておるんじやろ？

このお…
言いたい放題
言いやがって…



キモいのよおっ！
クソジジイっ！

なにをいうか♡
ふひひっ♡
奴らも同類、同類♡

違うっ！
みんなは…

みんなはああっ！



こんなキモいっ！
えっちはしない

この罵り合う姿を見て
未だ戦っているのかと
錯覚するほどだ。

そして、交尾は終盤。

蜘蛛はこれらを見上げ
成り行きを見守る

ほほ〜ん♪
それじゃ、お仲間は
どんな風にするんじや〜？

くう…



夜は更けて
周りは静か

そこには、乾いた音と
湿った音が響き

ねえ♡
おしえてえ♡

ほれ
ほれっ

無視かいなっ

だったら…



見上げる向こうに
多数の蜘蛛が這う。

だったら…
これでどうじゃ♡

ほほれ♡
ほれ♡





そっく…

くそお…
思い通りに…



ほれれ〜♪



ほれっ



なりたくない…



けど…

その静かな夜を…

裂くように…

もう無理…

あはははっ！
あひいひひっ！

わかったあ
わかったからあ！

その後、蜘蛛はしばらく
これらを眺めたが

流石に飽いて、この場を去る。

それじゃ
くすぐるのを
やめてやる

しかしながら、
夜が明ける頃に
またここで蜘蛛は糸を垂らす。

ただし……と……
……もやってもらぞ♡

なぜなら
またもや珍しい光景をみたからだ

くっ……!



いうからあ
いひひい…やめてえ
いうから…

高らかに笑いながら
蜘蛛が上で
遺伝子の受け渡しが完了する。

おねがいつ…
あはははっ…
やめてええ…

もう…
楽になりたい…

それは蜘蛛には
わからぬが
及び知らぬところではあるが



あっ

すいころころ♡

らめえ♡

すいころころ♡

その姿は、
糸を垂らす程に…

んんっ♡

もっと
音たてて♡

激しく
してえん♡

思いがけない光景だったからだ…

